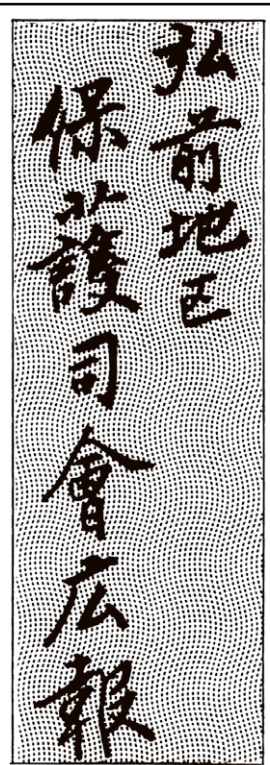


令和六年度定例総会は、今年
は例年より少し遅い時期の五月
九日に、アートホテル弘前シ
ティにおいて開催されました。
総会には、昨年より多い会員
四十二名、櫻田弘前市長、野尻
青森保護観察所長、成田弘前警
察署長（代理三好刑事生活安全
官）の他、ご来賓十一名のご出
席をいただきました。野呂秋江
副会長の「保護司信条唱和」に
引き続き、物故者並びに能登半
島地震の被災者への「黙祷」、
森山忠雄会長の挨拶、来賓祝
辞、そして新任保護司五名の紹
介へと和やかな雰囲気が進みま
した。

議案審議では、議長に第四分
会の小倉和明氏を選出し、監査
報告、令和五年度事業報告、決
算報告及び令和六年度事業計
画、予算案並びに会則の変更が
満場をもって承認されました。
また、今年役員改選の年度で
はないのですが、研修部長に成
田大介氏、広報部長にも牛山敬
氏が新たに選任され、今後のご
活躍が期待されます。
そして、昨年五月より新型コ
ロナウイルスが5類扱いに移行
したこともあり、保護司及び関
係機関の方が一堂に会する総会
後の懇親会には例年を上回る
三十六名（ご来賓含め）が出席

令和六年度定例総会

事務局長 田澤昭次郎



発行/弘前地区保護司会
更生保護サポートセンター
TEL-FAX 0172-38-1175
編集/保護司会広報部
印刷/やまと印刷株式会社



し、会話の花を咲かせることが
できました。会員との親睦を深
めることを最も大切に行っている
森山会長のご機嫌な笑顔が今年
も溢れておりました。
弘前地区保護司会は、昨年
から再開した「弘南ブロック研
修」、今年は六ヶ所村で開催さ
れる「青森県更生保護大会」、
各種研修での研鑽に加え、各協
力組織等と連携を密にして運営
していきますので、皆様のあた
たかいご協力を心からお願い
いたします。



社会を明るくする運動への参加を通じて

研修部長 成田 大介

この度は七月七日の「第七十四回社会を明るくする運動」に参加し、改めて社会の課題や自分の役割について深く考える機会となりました。

伝達式では、犯罪のなくなる社会へ向けて、改めて結束をしなければならぬと感じました。

街頭キャンペーンでは、多くの人々と触れ合い、犯罪や非行の怖さ、そして更生支援の大切さについて話を聞かせていただき、中には、自身の体験を語ってくださる方もおり、その言葉一つ一つが心に響きました。また、地域の方々との絆を深め、共に住む社会に対する意識を高めることができました。

これらの活動を通して、犯罪や非行は、決して他人事ではなく、自分自身にも起こりうる可能性があることを忘れてはいけません。同時に、犯罪や非行

に巻き込まれてしまった人々に対して、社会全体で温かい目で見守ることが大切だと感じました。更生を支える活動の重要性も改めて認識し、私も何かできることはないかと思いつき、良い機会となりました。

保護司になって以来、これまでの運動への参加は、私にとって大きな経験となり、社会の一員として、犯罪や非行のない、より良い社会の実現に向けて、積極的に貢献していきたいという強い思いが芽生えました。

私のまわりにも、少なからず犯罪や事故に巻き込まれた方もいます。その人たちにもそれぞれの家族や仲間がいます。その家族の苦悩もいくつか聴くこともありましたが、誰ひとり悲しむことのない街にしていきたい、どうするべきか。今後は、ボランティア活動への参加や、周囲の人々への啓発活動など、自分

にできることから少しずつでも実践していきたいと考えています。

今回の経験を通して得たものは、私にとってかけがえのない財産です。この経験を活かし、今後も保護司として、社会の一員として、より良い社会づくりに貢献していきたいと思えます。



分会報告

第四分会長 成田 孝之

若干三年足らずのまだまだ新米保護司ですが、この度第四分会の分会長の大役を頂きました。

第四分会は元々の人数が一番少ない分会でありながら五名もの大先輩方々が役員として尽力されており一番新人である私も微力ながらお役に立ちたいと言う思いでお受け致しました。お話を聞いて日も浅く未だに研修活動も決まっておりますが心強い大先輩が多くいるこの分会ではあまり悩むことは無いのではと楽観視しております。実際は大先輩方々の経験は豊富でその経験談を聞いていてだけで新人の私にとっては抱えていた疑問や問題の解決と私自身の成長に繋がりました。

今回私自身が分会長の機会を頂いた事で過去の研修内容や分会での活動の取りまとめ等多くの雑用を前任の分会長が尽力されていた事に気付かされました。私は仕事柄（片付け作業

等）雑用をこなすことが大得意です。若干私の忙しい仕事との兼用になりますが可能な限り分会を盛り上げていけたらと思います。難しい研修を提案するのはあまり得意でないので出来るだけ自分のレベルに合った内容をご提案できたらと思います。名ばかりの分会長ですが可能な限り活発に活動し保護司を続ける上で他の保護司の仲間たちにとってもプラスになる研修や他分会と交流を深める機会をご提案出来たらと考えております。今後ともご指導の程よろしくお願いいたします。



部会報告

広報部長 牛山 敬

一昨年から、広報部会には私を次の広報部長に推す方が複数名いらっしゃいました。私は「出張や突発的な仕事が多く、とてもお引き受けできませんでした。」とお断りしてきましたが、他の方々もお忙しい中で、どなたも引き受けることができない状況を知り、これまでのやり方を継続できないかもしれないことをご承知いただき、先日の総会において正式に広報部長の任を拝命いたしました。今後は所属されておられる広報部員や観察所の方々、保護司の皆様にもご意見を伺いながら進めてまいりますので、これからの広報活動や広報誌のあり方を共に考えていただければ幸いです。

現状としましては、年二回の広報誌発行が主な活動ですが、私を含め、お仕事等のご都合により、編集会議や広報活動に参加される部員が限られている

ため、一部の方に作業が集中することが多く見受けられます。コロナ禍以降、デジタル技術を活用した会議などが一般的になったこともあり、編集や校正についてはそのような技術を活用していきたいと考え、広報部員の方々や、原稿を依頼する方々には、今後のためにもデジタルでつながっていただけるようご理解をいただきながら、準備を進めているところです。

未だ、前任の広報部長におんぶに抱っこのような状態であり、皆様にもご迷惑をおかけすることになるかと存じますが、与えられた大事な責務にお応えできるよう励んでまいりますので、お力添えをよろしくお願い申し上げます。



サポセン便り

長内 郁子

皆さんこんにちは。
現在サポートセンターでは、十三名の企画調整保護司が交代で当番に当たっています。

最近の話題は、やはり五月に起こってしまった大津市の新庄保護司の殺害事件などが有りま
す。自分も保護司活動としては、経験が浅く対象者との面接での悩みも深く、毎回の対応がこれで良いのだろうかと思いながら進めています。先輩保護司の皆様方に相談をしながら、何とか務めています。又、薬物使用や再犯事案の増加なども保護司という立場を離れても話題にのぼります。様々な対応に正解は無いのでしようが、出来るだけ寄り添える様な対応が出来るようにに諸先輩に学びながら研鑽を続けていかなければと気を引き締めている所です。

サポートセンターでは、当番保護司が平日は午前九時から午後三時まで情報交換の場として、夏は冷たい飲み物を準備して、皆様のご来所をお待ちしております。

退任保護司

成田 圭子

思い起こせば二十二年前のこと、近所の保護司の方から、退任するのでその後任になつてくれないかと言われ、保護司の詳細を知らなかった一介の主婦の私に務まるのかしらと悩みに悩みました。観察所へ提出する書類も、これでいいのかしらと手探りの状態でした。提出後、観察所からのクレームがなかったのので胸を撫でおろしたものです。

私の地区は田舎なので対象者も少なく、片手で足りる程度の人数でした。対象者が少ないということ、それだけ平和な地区でもあるのですが、勉強不足で保護司の本質を消化しきれないままの二十二年だったように思います。二十二年前は私と同年代の方は少人数でした。その後、徐々に同年代の方も増えてきて、私も少しずつ保護司会の雰囲気馴染んでいったように思います。浅虫などの泊まり掛けの研修や、

青森刑務所の視察など、保護司であればこそその行事で多様な社会を学ぶことができました。

少人数の対象者ではありませんが、未熟ながら精一杯向き合つたつもりです。また、対象者を通じて私自身も少しは成長できたのかな、との思いもあります。

研修会や会合で一緒に過ごしたお仲間の皆様には色々とお世話になり、ありがとうございます。この場をお借りしてお礼をさせていただきます。



新任保護司紹介

横山 正明さん
まよあき

第二分会 職業対策部所属

米澤 豊光さん
よねざわ とよみつ

第六分会 職業対策部所属

磯谷 成二さん
いそたに せいじ

第四分会 研修部所属

編集後記

最近またコロナ禍の話が身近で聞かれるようになり思い出す。

急に広報部長になった私の初めの号は、コロナ禍の中の総会中止 会則にも定められていない事態、次号はサポセンでの勲章等伝達式 ギャラリー無くカメラアングルに苦慮、その次は社明運動メッセージ伝達式 弘前市役所と西目屋役場に出張伝達、コロナ禍の中での写真は全員がマスク 三年ものマスク生活はあたりまえになっていた。

長内うめ子